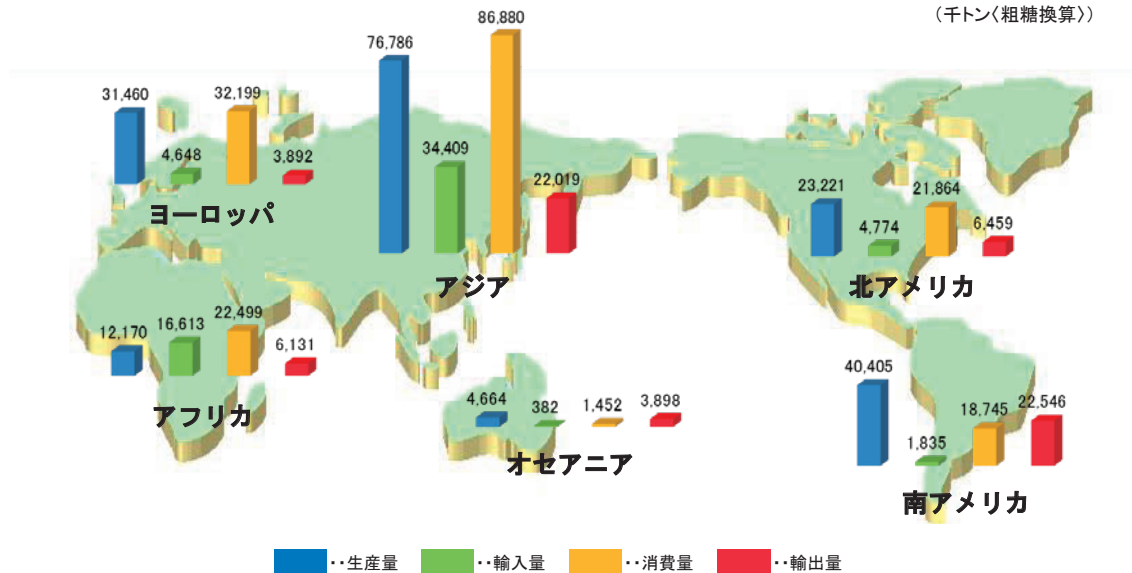


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給 (2019年3月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2018/19年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,122	160,315	56,023	164,767	56,244	50,449	30.6
2013/14	63,423	184,058	58,323	175,184	61,044	69,576	39.7
2014/15	69,576	183,717	59,707	176,521	62,081	74,397	42.1
2015/16	74,397	175,955	67,776	179,670	69,077	69,382	38.6
2016/17	69,382	180,614	70,844	181,854	71,080	67,907	37.3
2017/18	67,907	195,323	66,038	181,456	68,064	79,748	43.9
2018/19 (2018年12月予測)	78,507	185,027	62,152	184,888	63,394	77,404	41.9
2018/19 (2019年3月予測)	79,748	188,706	62,662	183,289	64,945	82,882	45.2

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年4月号をご参照ください。

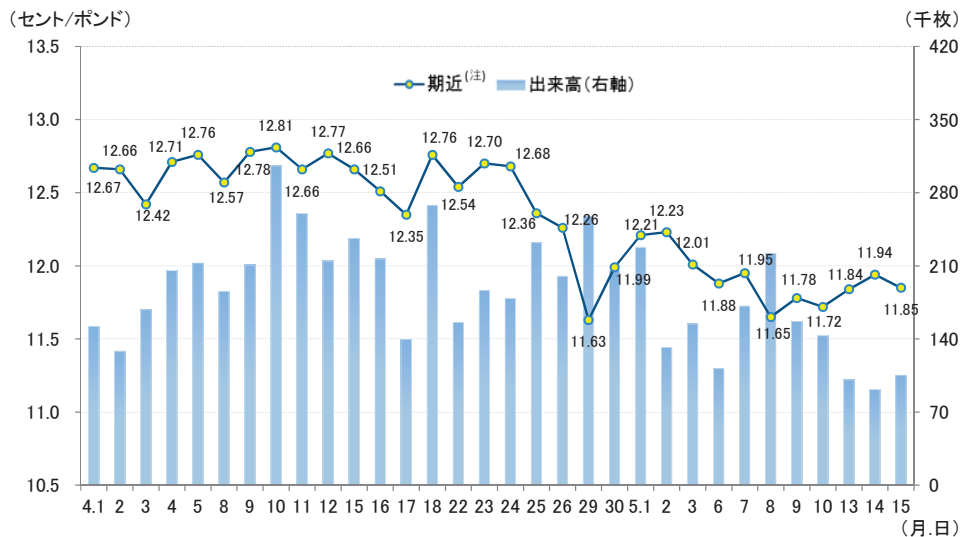
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001940.html

「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001939.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (4/1 ~ 5/15) ~ 2019年1月以来の安値を付ける~

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：4月は5月限の値、5月は7月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年4月の推移を見ると（5月限）、1日に1ポンド当たり12.67セント^{がつきり}（注1）の値をつけた後、3日は原油価格の上昇が一段落したこともあり^{（注2）}、同12.42セントまで値を下げた（図2）。4日は反発し、同12.71セントまで値を上げ、以降は同12セント台後半で上げ下げを繰り返す展開となった。15日以降は、世界的な砂糖の過剰在庫解消にしばらく時間がかかるとの見方を背景に3日連続で下落し、17日は同12.35セントまで値を下げた。翌18日は売られ過ぎの反動から、同12.76セントまで回復した。週明けの22日から24日までもみあいが続ぎ、25日は世界的な供給過剰が解消されないまま、ブラジルが本格的な製糖期を迎えることから、同12.36セントまで値を下げた。29日は原油価格の急落でバイオエタノールの価格優位性が低下したことにより、さらに値を下げ、同11.63セントと年初来の安値を付けた。5月限の納会を迎えた30日は同11.99セン

トと前日の急落から値を戻して取引を終えた。

5月に入ると（7月限）、1日は同12.21セントの値を付け、3日まで同12セント台で推移したものの、6日は原油価格の下落に引きずられて同11.88セントまで値を下げた。8日は前日にブラジル国家食料供給公社（CONAB）が砂糖増産の見通しを示したことを受け、同11.65セントまで値を下げた。その後は、目立った材料がない中、緩やかな回復基調を続け、14日は同11.94セントの値を付けた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）一般に、原油価格が上昇すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が高まる。バイオエタノールへの需要が高まると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増えるため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が減る方向に作用する。その結果、需給ひっ迫の懸念が強まり、商品相場は上昇する傾向にある。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年5月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年4月末日TTS相場の値であり、1米ドル=113円（112.85円）である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）

生産量：6億2400万トン（同0.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3255万トン（同4.2%増）

輸出量：2234万トン（同12.6%増）

2019/20年度、輸出量はかなり大きく増加する見込み

L M C International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年5月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は砂糖の国際相場の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少する見込みであるものの、サトウキビ生産量は生育状況がおおむね良好であることから6億2400万トン（同0.5%増）と横ばいで推移すると見込まれている（表3）。

砂糖生産量は、砂糖の国際価格が過去10年で最低水準であった前年より回復すると予想されることから、サトウキビの砂糖生産への仕向け割合が上昇すると見通しの下、3255万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同4.2%増）とやや増加し、輸出量も2234万トン（同12.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれている。

オーガニックシュガーの生産量、過去最高を更新

ブラジル農務省（MAPA）は4月24日、2018/19年度の地域別糖種別の生産実績を公表した。同国の砂糖生産の9割を占める中南部地域の糖種別生産量を見ると、粗糖や精製糖は前年度と比べ大幅に減少する中、オーガニックシュガー^{（注）}は過去最高となる23万7000トン（前年度比7.6%増）の生産量を記録した（表2）。

現地報道によると、有機農産物を使用した菓子や飲料などの有機加工食品に対するニーズの高まりにより、オーガニックシュガーに対する需要は世界的に増加傾向にあるとし、2022年におけるオーガニックシュガーの市場規模は13億米ドル（1469億円）、2022年までの5カ年の年平均成長率は15.6%で推移すると予想されている。ブラジルは、世界におけるオーガニックシュガー生産の約4分の1のシェアを占めるとされ、同国が引き続きオーガニックシュガー市場の成長をけん引する重要な役割を果たすと期待されている。

（注）オーガニックシュガーとは、有機栽培のサトウキビまたはてん菜のみで作られた砂糖のこと。

表2 中南部地域における糖種別生産量

(単位：千トン、%)

糖種	年度	2017/18	2018/19	前年度比 (増減率)
粗糖		34,799	25,992	▲ 25.3
精製糖		303	254	▲ 16.2
オーガニックシュガー		220	237	7.6
含みつ糖		20	9	▲ 53.5
その他		-	16	-
合計		35,342	26,508	▲ 25.0

資料：MAPA
注：数値は製品ベース。

中国の砂糖に対する追加関税をめぐる、中国政府との協議が続く

MAPAの通商交渉官は5月5日、中国政府が輸入砂糖に課している追加関税措置が近いうちに解除されるとの見通しを示した。同交渉官は「中国との協議は順調に進んでいる」としながらも、同措置が解除される具体的な日程については明言を避けた。

中国の砂糖に対する追加関税措置は、194万トンの関税割当数量を超えて輸入される砂糖に適用されるもので、2017年8月から実施されている。適用税率は1年目が95%とし、その後、毎年5%ずつ引き下げられる。ブラジルは2018年10月、中国によるこのような砂糖に対する追加関税措置を不服として世界貿易機関（WTO）へ2国間協議を要請していた。

表3 ブラジルの砂糖需給の推移

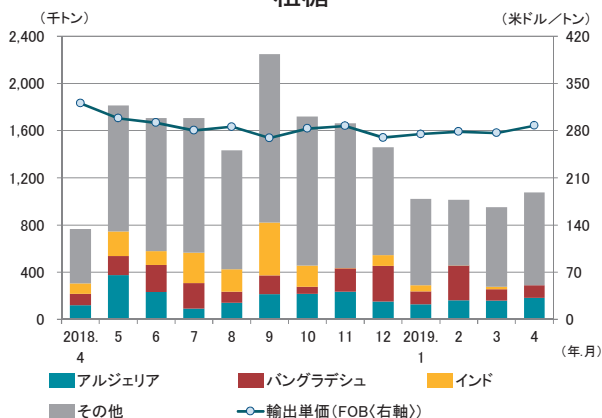
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,748	8,473	▲ 2.0	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,772	614,000	624,000	0.5	
砂糖	生産量	41,670	41,530	31,240	34,120	4.2	
	輸入量	4	2	3	3	1300.0	
	消費量	11,275	10,936	10,882	10,882	0.0	
	輸出量	30,117	30,991	19,839	23,241	12.6	
	期末在庫量	1,022	627	1,150	408	521	▲ 54.7
	期末在庫率	2.5	1.5	3.7	1.2	1.6	2.18ポイント減

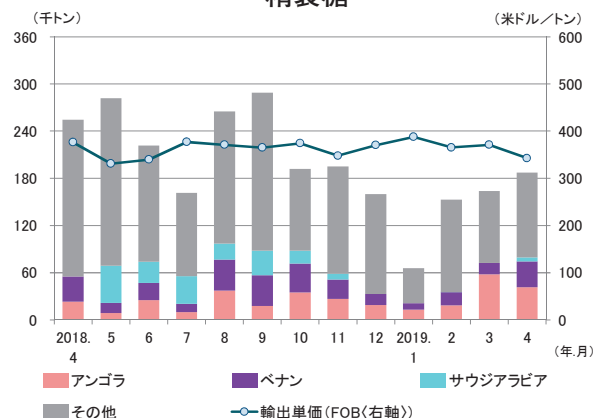
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：503万ha（前年度比4.2%増）
生産量：4億153万トン（同1.9%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3548万トン（同2.2%増）
輸出量：370万トン（同56.6%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、サトウキビの買い取り価格が引き上げられたことに伴う生産意欲の高まりにより503万ヘクタール（前年度比4.2%増）とやや増加すると見込まれている（表4）。一方、サトウキビ生産量は主要生産地における干ばつや害虫被害の影響でサトウキビの生育が停滞しているため、4億153万トン（同1.9%減）とわずかに減少すると見込まれている。

砂糖生産量は3548万トン（同2.2%増）とわずかに増加し、輸出量は政府が製糖業者に対し輸送費などの助成措置と引き換えに500万トンの最低輸出義務を課していることから、370万トン（同56.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

WTO協定に基づくブラジルとの協議、平行線で終了

インド政府は4月14日、同国による砂糖の補助金政策に関して、ブラジル政府との間でWTO協定

に基づく協議を開始した。現地報道によると、インドは発展途上国であることを理由に砂糖の輸出に補助金を支給する権利を有すると主張し、現行の補助金政策を見直す考えがないことをブラジル側に伝えたとされる。また、農業生産に対する財政支援はWTO協定において10%まで認められていることから、協定に何ら反していないと述べているという。しかし、インド側に対しWTO協定上認められる限度をはるかに上回る助成措置を自国の砂糖産業に与えており、世界での公平な競争を歪めていると反論するブラジルとの議論は平行線をたどり、結果、初協議は物別れに終わった。

インドの砂糖の補助金政策に対するWTO協定に基づく協議の申し入れは、ブラジルのほか、豪州、グアテマラも行っており、近日中にこれらの国と協議が行われる見通しであるが、いずれの協議も平行線をたどるとみられる。協議が不調に終わった場合は、WTO協定に違反するか否かの判断を裁判の一審に相当する紛争処理小委員会（パネル）に委ねることとなる。

表4 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

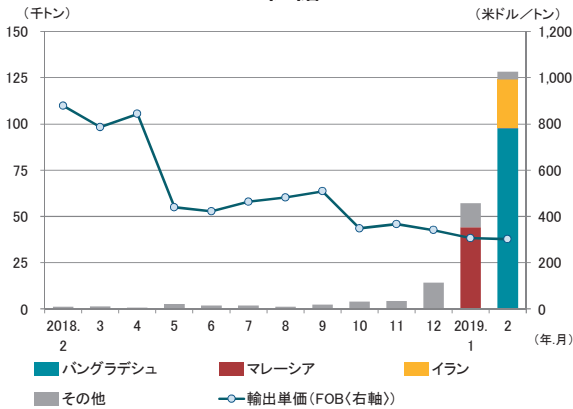
年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (4月予測)	2018/19 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,806	4,327	4,830	5,033	5,033	4.2	
サトウキビ生産量	356,871	323,556	409,164	403,026	401,526	▲ 1.9	
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	35,151	35,475	2.2
	輸入量	2,146	2,536	2,306	350	350	▲ 84.8
	消費量	26,784	26,568	26,930	27,460	27,434	1.9
	輸出量	3,955	2,233	2,361	3,698	3,698	56.6
	期末在庫量	8,370	3,952	11,687	16,032	16,380	40.2
	期末在庫率	27.2	13.7	39.9	51.5	52.6	12.7ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

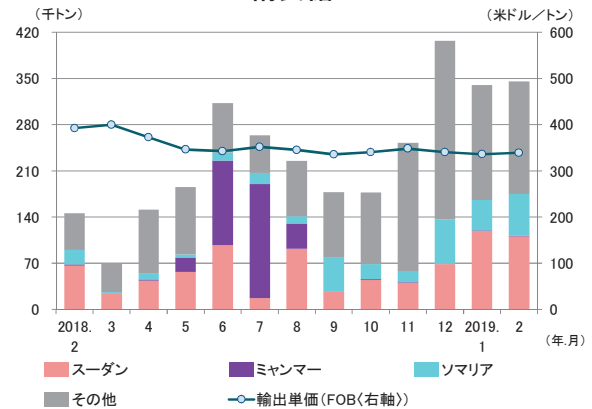
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）

生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）

生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1155万トン（同3.7%増）

輸入量：536万トン（同11.0%減）

2018/19年度、輸入量はかなり大きく減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表5）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更^(注)したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の増産が期待できるものの、天候不順などの影響で平均糖度が平年を下回る

とみられることから、1155万トン（同3.7%増）とやや増加にとどまると見込まれている。輸入量は、このところの伸びが鈍化し始めており、加えて米中貿易摩擦により中国経済の減速懸念が強まっていることから、最終的には前年度を下回る536万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれている。

(注) 政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

サトウキビの買い取り価格、行政介入は廃止へ

広西チワン族自治区政府は4月15日、サトウキビの買い取り価格の決定プロセスを、生産者と製糖

業者の自由な交渉に委ねると発表した。サトウキビの買い取り価格は、これまで同政府が定めていたが、必ずしも市況を反映した価格となっておらず、昨今の砂糖の国際価格の低迷下においては、硬直的で高止まりしているサトウキビの買い取り価格が製糖業者の収益を圧迫する要因になっていた。今後は、価格設定を市場原理に委ねることで、製糖業者が適正な収益を確保できる環境を整え、砂糖産業の競争力強化につなげる狙いがある。

なお、サトウキビやてん菜を生産する他の省や自治区では、行政が直接価格決定に関与する制度をすでに廃止しており、中国最大のサトウキビ産地であ

る同自治区だけが唯一、行政による価格介入を行っていた。

2019年3月の砂糖輸入量、前年同月を大幅に下回る

中国税関総署が4月22日に公表した2019年3月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は、前年同月と比べ85.3%減の6万トンと大幅に減少した。2018/19年度上半期の輸入量は、105万トン（前年同期比17.5%増）と大幅に増加しているものの、前月までの累計が前年同期比2倍に迫る伸び率であっただけに、輸入量の伸びに急ブレーキがかかった。

表5 中国の砂糖需給の推移

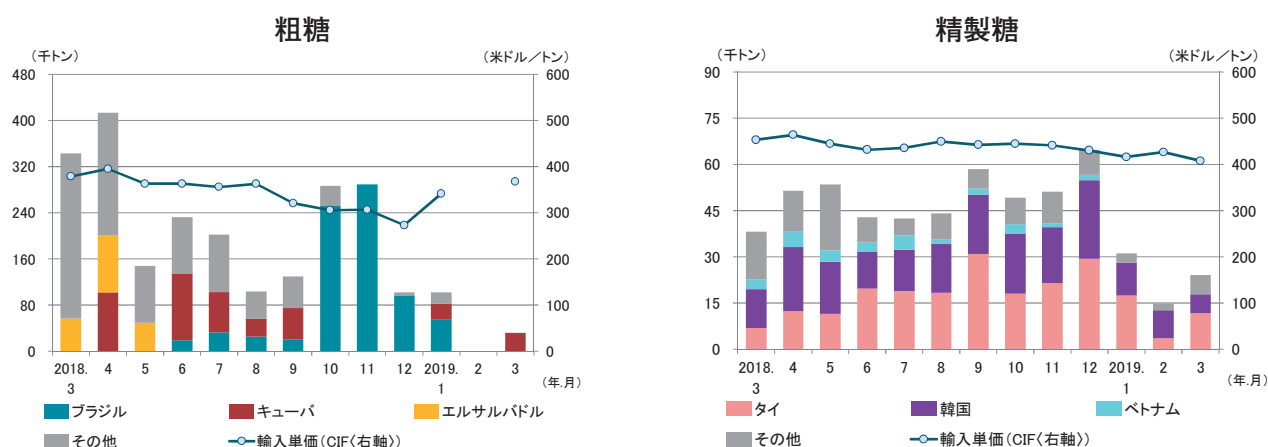
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (4月予測)	2018/19 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲ 1.0	
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4	
てん菜収穫面積	136	168	186	243	243	30.5	
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7	
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,251	11,554	3.7
	輸入量	7,910	5,715	6,015	6,036	5,356	▲ 11.0
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,142	17,142	1.2
	輸出量	181	146	195	174	174	▲ 10.7
	期末在庫量	11,926	10,689	10,724	10,695	10,317	▲ 3.8
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	61.8	59.6	3.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3位を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績なし。

E U

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：171万ha（前年度比1.1%減）
生産量：1億1475万トン（同17.1%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1833万トン（同15.1%減）
輸出量：201万トン（同47.2%減）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり大きく減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール（前年度比1.1%減）とわずかな減少にとどまるものの、てん菜生産量は春先の冷え込みによる植え付けの遅れと、少雨で乾燥した日が続いたことから、1億1475万トン（同17.1%減）と大幅な減少が見込まれている（表6）。

砂糖生産量はてん菜生産量の減少に加え、てん菜の平均糖度が平年を下回るとみられることが影響し、1833万トン（同15.1%減）とかなり大きく減少し、輸出量は前年度の砂糖の生産割当撤廃に伴う輸出増の反動で、201万トン（同47.2%減）と大幅に減少すると見込まれている。

CEFS、メルコスールとの通商交渉に懸念を示す

欧州製糖協会（CEFS）は5月14日、EUが南米南部共同市場（メルコスール）^{（注）}との間で交渉を続けている自由貿易協定（FTA）においてメルコスール側が砂糖の市場開放を求めていることを受け、欧州委員会に対し安易に譲歩しないよう求める声明を発表した。

この声明によると、EUが近年合意に達した他国との貿易協定の通商交渉では、相手国から譲歩を引き出すため、砂糖の関税引き下げが交渉のカードとして使われてきたとし、それらの国がEUの砂糖市場に有利な条件でアクセスできる数量はEUの砂糖の需要量をはるかに超えていると主張している。こ

のため、これ以上の市場開放は、地域経済や社会を支えてきたEUの砂糖産業に壊滅的な打撃を与えるだけでなく、加盟国の政府は生産者や農村部の有権者からの支持を失い、今後の選挙で厳しい審判が下されることになるかと警告した。また、メルコスール加盟国であるブラジルの砂糖生産について、人権や環境への配慮に欠けており、EUが目指す価値観、基準と相容れないものであるとし、「ブラジル産砂糖を他国より有利な条件で輸入すべきではない」とも主張している。

（注）外務省によると、メルコスールは域内の関税撤廃などを目的に発足し、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ、ボリビアの6カ国が加盟している。ただし、ベネズエラは加盟資格停止、ボリビアは各国議会の批准待ちで現在議決権はない。

欧州委員会、砂糖の2019/20年度需給見通しを公表

欧州委員会は4月17日、2019/20年度の砂糖の需給見通しを公表した。この見通しによると、てん菜収穫面積は砂糖の国際価格の低迷や、ネオニコチノイド系農薬の使用が規制されることなどから、前年度と比べ3.6%減（6万3000ヘクタール減）の167万3000ヘクタールと見込まれている。てん菜生産量は、気象災害などの影響で大幅に減産すると見込まれる前年度に比べれば安定した生育が期待できるとし、1億1694万トン（前年度比8.2%増）とかなりの程度増加すると見込まれている。

これらを踏まえ、砂糖生産量は前年度と比べ3.2%増加し、1830万トンになるとの見通しを示した。他方、砂糖消費量は消費者の健康志向の中で

の低甘味や低カロリーに対するニーズの高まりを背景に2年連続で減少し、1810万トン（同2.1%減）となると予想している。

表6 EUの砂糖需給の推移

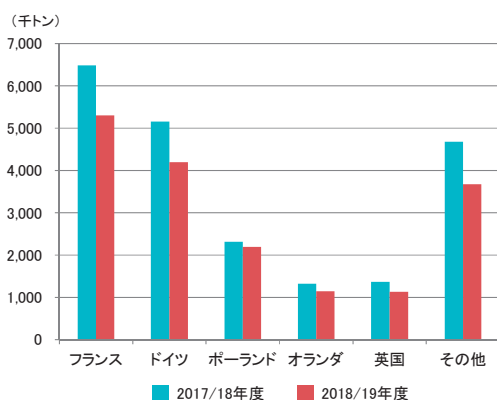
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (4月予測)	2018/19 (5月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,364	1,466	1,732	1,712	1,713	▲ 1.1
てん菜生産量	94,855	107,986	138,437	117,475	114,749	▲ 17.1
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,578	18,584	▲ 15.1
	輸入量	3,651	3,117	1,731	2,391	38.1
	消費量	19,481	19,177	19,219	18,947	▲ 1.7
	輸出量	1,501	1,510	3,809	1,957	▲ 47.2
	期末在庫量	1,913	1,413	1,695	1,679	▲ 10.9
	期末在庫率	9.1	6.8	7.4	8.0	7.2

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

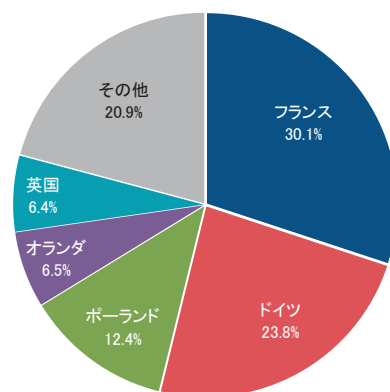
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年4月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：2018/19年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年5月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンについて報告する。本稿中の為替レートは2019年4月末日TTS相場の値であり、1フィリピン・ペソ=2.3円である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度同）

生産量：3417万トン（前年度比5.2%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：489万トン（同3.6%増）

輸出量：356万トン（同4.3%増）

2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともにやや増加する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移し、サトウキビ生産量は3417万トン（前年度比5.2%増）とやや増加すると見込まれている（表7）。

砂糖生産量は489万トン（同3.6%増）、輸出量は356万トン（同4.3%増）と、ともにやや増加すると見込まれている。

クイーンズランド州の生産者団体、環境規制強化に強い不快感を示す

クイーンズランド州の生産者団体であるCANE GROWERS^(注)は4月29日、グレートバリアリーフ（サンゴ礁）保護を目的に州政府が制定した「グレートバリアリーフ保護対策法」の改正案をめぐって強い不快感を示す声明を発表した。同団体によると、法案の審議が付託された州議会の委員会

に対し生産者に過度な負担を強いるおそれがあると、再三にわたり法案の修正を要請してきたにもかかわらず、同委員会が4月下旬にまとめた法案の修正案にCANE GROWERSの意見がほとんど反映されなかったと述べている。そして、「規制ありきで議論が進んでおり、非常に遺憾だ」と批判した。

今回の改正案は、白化現象が深刻化するサンゴ礁の保護をさらに強化・徹底するため、保護活動に関する産業界の自発的な取り組みの推進に重きを置く現行法を見直し、施用した肥料や農薬の量と種類を詳しく州政府に報告させることや、圃場からの肥料・農薬成分の河川や地下水への流出を厳しく規制するなど行政の関与を強める内容となっている。なお、州政府は2019年半ばまでに法案を成立させ、2022年ごろから本格的に適用する考えを示している。

（注）CANE GROWERSは1934年に設立され、クイーンズランド州のサトウキビ生産者の4分の3が加入している。

表7 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	2019/20 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	368	376	385	385	385	0.0	
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,492	32,810	34,169	5.2	
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,456	4,893	3.6
	輸入量	68	29	29	91	91	209.8
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,084	1,071	0.3
	輸出量	4,004	3,577	3,412	3,467	3,560	4.3
	期末在庫量	969	771	1,045	748	1,399	33.8
	期末在庫率	18.8	16.4	23.3	16.4	30.2	6.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.1%増）

生産量：1億3100万トン（同2.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1552万トン（同0.4%減）

輸出量：1055万トン（同4.7%増）

2018/19年度、輸出量はやや増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は179万ヘクタール（前年度比0.1%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれるものの、サトウキビ生産量は台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受け、1億3100万トン（同2.9%減）とわずかに減少すると見込まれている（表8）。

砂糖生産量は、気象被害が少なかった東北部のサトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分をカバーするとみられることから、1552万トン（同0.4%減）と横ばいで推移すると見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1055万トン（同4.7%増）とやや増加すると見込まれている。

焼き畑の抑制対策、目標にわずかに届かず

サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^{（注）}は5月17日、2018/19年度に操業した56の製糖工

場のほとんどが製糖終了を迎え、今年度のサトウキビの圧搾量は1億3110万トン、平均CCS（可製糖率）は12.6度（前年度比0.2ポイント増）となったと発表した。加えて、焼き畑により収穫されたサトウキビの量が8000万トン（生産量に占める割合61.1%）に達したことも明らかにした。

タイ政府は、サトウキビの梢頭部^{しょうとうぶ}や葉を燃やした後に収穫する焼き畑が大気汚染悪化につながっているとし、2月以降、焼き畑の抑制に向けた対策に乗り出していたが、今年度の焼き畑による収穫率を6割以下とする目標にあと一步届かなかった。ただし、焼き畑による収穫率をわずか3カ月で前年度と比べ5ポイント以上抑制しており、緊急的な対応であったものの、一定の効果が見られた。

（注）サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）の事務局。

表8 タイの砂糖需給の推移

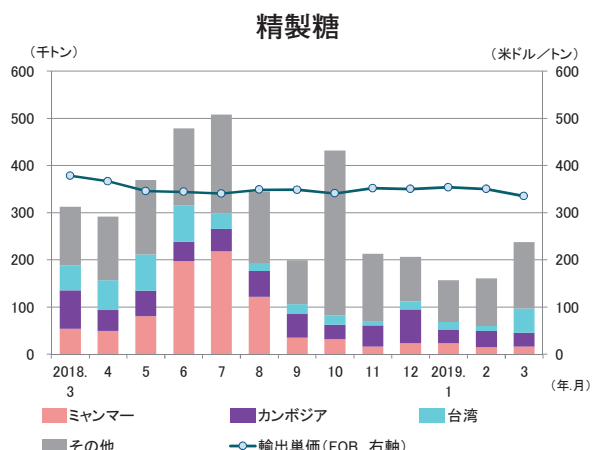
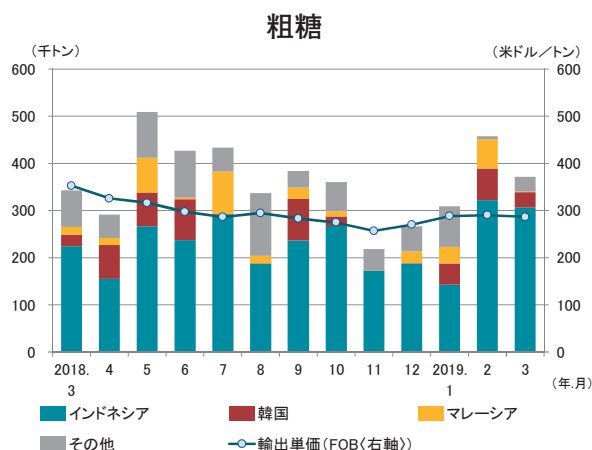
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (4月予測)	2018/19 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,644	1,578	1,790	1,792	1,792	0.1	
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	130,000	131,000	▲ 2.9	
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,586	15,122	▲ 0.4	
	輸入量	1	0	6	3	▲ 48.4	
	消費量	3,272	3,283	3,343	3,140	▲ 6.3	
	輸出量	7,932	7,393	10,077	12,183	4.7	
	期末在庫量	3,970	3,951	6,123	5,920	7,965	30.1
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	38.6	58.2	12.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

フィリピン

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比1.2%増）

生産量：2300万トン（同3.6%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：208万トン（同0.2%減）

輸出量：21万トン（同3.9%増）

2018/19年度、砂糖生産量は横ばいで推移する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は42万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかに増加すると見込まれている一方、サトウキビ生産量は主要生産地の直近4カ月間の降雨量が平年の半分程度と少なく、乾燥した気候が続いていることから、2300万トン（同3.6%減）とやや減少すると見込まれている（表9）。

砂糖生産量は、サトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分をカバーするとみられることから、208万トン（同0.2%減）と横ばいで推移すると見込まれている。輸出量については、21万トン（同3.9%増）とやや増加すると見込まれている。

砂糖税の導入後、コーヒーミックスの消費が拡大

フィリピンとインドネシアの両政府は4月1日、フィリピンが2018年8月以来実施しているインドネシア産インスタントコーヒー製品に対するセーフガード措置の解除に向け、両国間の貿易・投資を活性化させることで合意した。これを受け、インドネシアの大手食品メーカーは、今後5年間でフィリピンに8000万米ドル（90億4000万円）を投資し、インスタントコーヒー製品を製造するための工場を建設すると発表した。

フィリピン国立食品栄養研究所（FNRI）の調査によると、フィリピンの家庭内で消費される食品の中で、コーヒーは7番目に多く消費される食品とされる。また、同国のインスタントコーヒー市場においては、砂糖と粉乳が入ったインスタントコーヒー（以下「コーヒーミックス」という）の方が、コーヒー

の抽出液を乾燥・加工したシンプルな商品より消費量が多いといわれている。昨今では、2018年1月に導入された糖類を含む飲料への課税（砂糖税）^(注)の対象からコーヒーミックスが除外されたこともあり、さらに消費量が伸びている。このため、前出のインドネシアの食品メーカーも、フィリピンに建設する工場においてコーヒーミックスを主力に生産するとみられる。

(注) 課税の対象となる飲料には、粉末飲料も含まれる。税額は、砂糖を加えたものが1リットル当たり6ペソ（約14円）、異性化糖を加えたものが同12ペソ（約28円）である。コーヒーは、フィリピン人の食生活・食文化に欠かせない食品の一つであるとされ、砂糖税の導入に当たっては、業界団体や国民からの強い反対の声に押され、政府はコーヒーミックスへの課税を断念した。

表9 フィリピンの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (2月予測)	2018/19 (5月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	413	421	418	423	423	1.2	
サトウキビ生産量	23,254	28,052	23,861	24,000	23,000	▲ 3.6	
砂糖	生産量	2,239	2,506	2,084	2,225	2,079	▲ 0.2
	輸入量	441	123	304	419	420	38.1
	消費量	2,347	2,277	2,331	2,386	2,387	2.4
	輸出量	168	283	205	213	213	3.9
	期末在庫量	526	594	446	491	345	▲ 22.6
	期末在庫率	20.9	23.2	17.6	18.9	13.3	4.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。